

17. ルーメンバイパス蛋白質飼料を活用した子牛の発育改善

南部振興局生産流通部 企画・経営体・畜産班

○衛藤剛生・塩崎洋一・酒井奏

1 背景・目的

佐伯市では年間300頭弱の肉用子牛を出荷しているが、子牛価格は市場平均を下回り、その要因として、出荷体重や日齢体重等、子牛の発育が十分でないことが考えられた。

しかし、経営体毎に子牛の管理方法が異なり一律での改善指導が難しいため、これまでは各経営体の要請に基づく個別対応に留まっていた。

そこで、管理方法が異なる経営体であっても一律に取組易い、「ルーメンバイパス蛋白質(RUP)飼料」の給与による発育改善に取り組んだのでその結果の概要を報告する。

2 方法

- (1) RUP飼料の内容：(現物中)CP 46%, RUP72%/CP, RDP28%/CP, TDN82%
- (2) 1日1頭あたり給与量：0～40日齢=50g, 41～70日齢=100g, 71～100日齢=150g
- (3) 給与の方法：スターターの上からRUP飼料を振りかけて給与(それ以外は農家慣行)
- (4) 対照区の設定：対照区は平成26年度子牛市場出荷牛とする(給与飼料は農家慣行)
- (5) 給与対象経営体：平成26年度3戸(期首成雌牛 55頭、平成26年度出荷 43頭)
平成27年度8戸(期首成雌牛145頭、平成26年度出荷107頭)
- (6) 測尺の方法：右項目を毎月測尺①体重 ②体高 ③胸囲 ④腹囲

3 結果

RUP飼料給与前は測尺を実施していないため、市場出荷子牛の日齢体重及び体重 σ 値を対照区として、測尺牛の測尺値と比較(下表のとおり)。

去勢、雌共に日齢体重及び体重 σ 値が大幅に上昇し、RUP飼料給与による子牛の発育改善効果が示された。

【表：対照区及び試験区の日齢体重等及び体重 σ 値比較】

	頭数	去勢		雌	
		日齢体重	体重 σ 値	日齢体重	体重 σ
①対照区	107頭	1.05kg/日	0.45	0.96kg/日	0.45
②試験区	65頭	1.13kg/日	1.26	1.03kg/日	0.91

4 残された課題

飼養形態による子牛発育差への対応やRUP飼料普及の他、繁殖成績改善等、生産性向上に向けた取組余地は多く残されている。

また、発育の改善と市場出荷価格の上昇は必ずしも一致しておらず、購買者による血統重視へ対応するための母牛改良も喫緊の課題となっている。

加えて、現時点では継続的に改善取組を進めていくための素地が十分とはいえないため、取組の基礎とするため佐伯地区畜産クラスター協議会の活性化を図る他、個別経営体を支援するコントラクター育成や堆肥処理等のシステム化が必要と考えられる。